

ヘルパンギーナ

症状

- ・コクサッキーA群ウイルスが主な原因で、コクサッキーB群ウイルスやエコーウイルスも原因となる感染症で、夏に流行します。
- ・感染経路は飛沫感染で、潜伏期は3～5日です。
- ・症状は、高熱、口腔内(のどチンコの周囲)にできる小水疱・潰瘍などです。
- ・発熱は2～4日で解熱しますが、熱性けいれんを伴うこともあり、口腔内の痛みで飲食ができず脱水になることもあります。
- ・まれに無菌性髄膜炎や心筋炎を起こすことがあります。

治療

- ・ヘルパンギーナの原因のウイルスに効く薬剤はないので、治療は対症的になります。

家庭で注意すること

- ・口腔内の痛みが強い時には、刺激物を避けるなどの食事の配慮も必要です。

登園・登校のめやす

- ・登校・登園停止の疾患にはなっていませんが、発熱や飲食できない時は自宅での安静が必要です。

予防

- ・予防接種はありません。

急患診療センターを受診するめやす

- ・熱性けいれんの場合にはけいれんに対しての治療が必要になり、脱水の場合には輸液などが必要になります。その場合は急患診療センターなどを受診しましょう。